

日本酒業界の未来 重力方程式 (Gravity equation) による実証分析

伊田 昌弘(阪南大学)

(背景と目的)

我が国で 300 年以上の歴史を持つ日本酒業界は長期的衰退に直面している。国内消費量は 1970 年代の 1/3 以下にまで落ち込み、企業数は過去 20 年間で 2,007 社 (1999 年) から 1,252 社 (2018 年) までに約 4 割が消滅している。

そうした中、注目されるのが日本酒の輸出急増である。日本酒輸出はコロナ禍 (2020-2022) にあっても伸び続け、2022 年には 13 年連続で過去最高の輸出額を記録している。しかしながら、輸出比率は、国内市場の規模に照らして、たかだか 10% 程度に過ぎない。また、輸出金額においては、フランスワインやスコッチウイスキーの 1/30~1/50 (2020 年時点) であり、未だ本格的な輸出産業とは言えない。この先、輸出が伸びたとして、どの程度の企業が生き残れるのであろうか。これを知ることが本報告の目的である。

(先行研究と研究方法)

そこで、本報告では国際貿易において最もよく知られている重力方程式 (Gravity equation) を用いて、日本酒輸出のモデル推計とシミュレーションを行い、将来の輸出可能性と存続企業数を計量的に探ることとする。飲料に関する重力方程式 (Gravity equation) を用いた先行研究はこれまでいくつか散見されるが、今回は、1 部門 1 方向型の理論モデルとなっている。こうした分野では、Gouveia et al.(2018)によるポルトガルで生産されるポートワインの輸出上位 20 カ国の分析、Bargain (2020) によるフランスワインの中国への輸出の研究といった先行研究があり、日本酒に関する重力方程式 (Gravity equation) はこうした研究の延長上となる。

(報告の特徴)

以上の研究方法を通して、従来から多くみられるケーススタディ型の日本酒の酒蔵における一般的な企業・経営課題を設定・提示する「企業努力アプローチ」とは異なった重力方程式 (Gravity equation) を用いた計量アプローチによる新しい研究領域を示す。

最後に、本報告は伊田 (2022) の拡張であり、日本酒の輸出が「文化の輸出」の側面を併せ持つことから、新たに説明変数として文化的要因を組み込んだモデルを展開する予定である。

参考文献

(1)Gouveia, Sofia and Rebelo, Jo?o and Louren?o-Gomes, Lina (2018) , “Port wine exports: a gravity model approach” International Journal of Wine Business Research, Vol.30. Issue 2, pp.218-242

(2)Bargain, Olivier (2020) , “French Wine Exports to China: Evidence from Intra-French Regional Diversification and Competition” Journal of Wine Economics, Volume 15 (2) , pp.134-162

(3)伊田昌弘 (2022) 「日本酒輸出の分析 (2009-20) —グラビティモデルからのアプローチ—」『阪南論集』第 58 卷 (1) pp.229-238|